

1301

新緑

昭和二年五月十日



1302

地方官大更迭

昭和二年五月十七日



腕の善三郎
首のすげ替
への替り当



1303

英露国交断絶

昭和二年五月廿五日



英
「悪党」が



露

「糞喰へ
ドチ」が
悪党だ



張作霖

「徐州も許昌も
取られたか
左に残念な
許褚は居らぬか
張遼はドーシタ

南軍

「張賊覺悟
しろ



1305

浜口雄幸立憲民政党首と為る

昭和二年六月一日



梶床共柔
雄幸獨剛
突兀怪貌
衆具瞻爾

1306

張作霖敗亡

昭和二年六月一日



1307

此厚彼薄

昭和二年六月三日

官憲

銀行屋支配

は助けてやれ

乞食共さハ

構ふな

コトバ
お助け
下さい



1308

米欧間一氣飛行

昭和二年六月六日



1309

不正牛乳

昭和二年六月七日

1



2



3



4



1310

五つ子輪廻のてしめ

昭和二年六月九日



1311

二高騒動

昭和二年六月十七日



生徒
「氣狂い校長
を叩き出せ」



校長
「不届
千万
お奴
等
一人
も残
らな
退学
分だぞ」



1312

アムンゼン来る

昭和二年六月二十日



張作霖自ら大元帥と称す

昭和二年六月二十日



1314

英

寿府軍縮會議

昭和二年六月二十一日



米
「お前の刀は長
過る、切り縮め
あさい」

日
「刀は武士の魂だ
切り縮めることは罷りあらぬ」



1315

ウシツケ彗星近づく
昭和二年六月二十七日



妖星北斗の分野を犯す
地を距ると一百四十萬里



1316

收穫

自四月一日
至六月三十日

昭和二年六月三十日



荒川義太郎
永井金次郎
志賀重昂
片岡直輝
山口辰弥
藤井幸三郎
山本唯三郎
藤代頼輔
淺田信興
松村金兵衛
三輪興佐
景山英子
望月小太郎
河内健次
竹内公鑑
矢橋賢吉
内藤政幸
芳野世經
金光山兵衛
藏田岩松
飯野吉三郎
比企金忠
大槻龍治
小山作之助
伊東祐忠



川寄救済中止

昭和二年七月六日



川寄

「ドーか

市助け下

さい

三土

預金部

融資

がい

山梯
「責任支出
がい

川寄

「助けて
下さい

三土

山梯

田中

「おは

大倉
「この野
郎め

1318

文士の自殺(芥川竜之介の事)

昭和二年七月二十五日

「有島先生以上の美しい死だ」

「ハ、三文文士の自殺が、
珍らしくもない」「崇高なる
死、徹底
せる大悟
の死よ」「乃木大将
の死は比すべ
きものだが、実
は莊嚴ある
死だ」「矢つぱり神聖衰弱で
気が狂ったんだね」

1319

又しても学校騒動
(本年度はお茶の水)



「悪徳校長
自決しろ」

「横暴
校長を
莽北」

「女權
蹂躪じ
やあいか」

校長
何を
生意
気か



昭和二年七月廿八日

1320

天皇小笠原島行幸
昭和二年七月廿八日



寿府軍縮會議決裂

昭和二年八月四日



英



日



米



1323

蔣介石没落

昭和二年八月十五日



「風向きが悪くあ
った。一と先づ逃
げ出さう」



1324

滿蒙問題と奉天排日

昭和二年九月七日



人の畑へ
何で踏み込
む？

一寸待つて
呉れ



1325

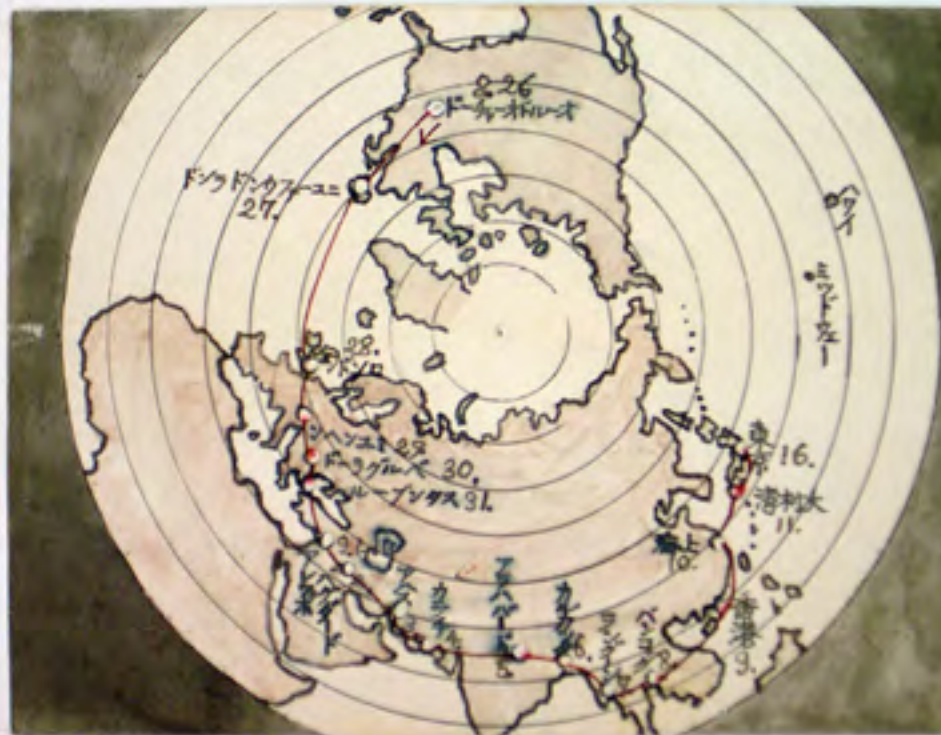
内親王御降誕
昭和二年九月十日



1326

世界早廻り機

昭和二年九月十六日



1327

收穫

自昭和二年七月一日
至九月三十日

昭和二年九月三十日



島地大等	執行弘道
安河内麻吉	沼波武史
奥宮正治	小三至志孝下
芥川竜之助	堀貞
村野常右衛門	村井弦齊
岡田正之	左右田喜一郎
井上敬之助	アイトト美ケリ
菊池慎之助	ザルル・パシヤ
福田和五郎	雷權太夫
西郷吉義	趙雨巽
加藤定吉	二條厚基
伊藤大八	横井時雄
塚原周造	徳富健次郎
高桑駒吉	大迫尚敏
中西清一	山縣伊三郎

1328

支那旅行

昭和二年十月五日

北陵見物

奉天の北のふもとに
荒れはてし
御階の下に
きりくすく
ふく



汽車の中

西東
織りあす
秋の人草
の中あつた
やまと
ふてーこ



満洲の平野

果しらぬ
野もせに見
ゆる柳かけ
河と道との
しらふあり
けり



亡国支那

亡び行くうちこの国
を旅して我が日の
本の尊さを
知る



1329

香山と金剛山

昭和二年十月十一日



香山

北京品
三十五里

あかきたふ

北のみやこの

西へには

草木もかゝる

山中あり

けり



鮮民無骨金剛皆骨

金剛山

(朝鮮邊境道)



中等學校英漢科問題

昭和二年十月廿五日



漢文家
「漢文ハ日本魂」
ノ根源ジャ
大ニ奨励
セニヤナラン



英語家
「英語ハ
世界語ダ
モサレテ
タマルモンカ



1321

汽車世界一

昭和二年十月二十六日



日本

発着時間の正確あること
貨車貨物の安きこと
客車の振動の少きこと

瑞西

登山鉄道の多きこと

獨

停車場の設備の完全あること
食堂の食物が無駄なきこと

仏

特急客車の普及あること

英

急行車の速力の大あること
三等車の立派あること

米

客車の掃除の行届けること
客車は理髪室浴室等々の備へること
機関車客車貨車の大きさ

1332

豫算分配難

昭和二年十一月七日



蔵相
騒ぐか
分けて
やるよ



唐生智亡命

昭和二年十月十四日

支那亡命御客様
御定宿日本

唐
「チヨウクラ
御拒命に
ナリマスベ」



1334

人生市長と為る勿れ

昭和二年十一月十五日



京都市長

「ア、

ツマラナイ

東京市長

「ナニ？」

退却しろ？

マーユツリ

飲むさ、



1335

大學赤化

昭和二年十二月二十日



「ヤミ」大變
大學が
眞赤に
あつた



1336

松方公九裸

昭和二年十二月一日



天声
罪七しに
丸裸なあれ

松方
ハ、畏まり
あらた



1337

東京市長頑張る

昭和二年十二月二日



西久保
はね飛ば
せろあやう
飛はして見ろ



1338

東京市長選定難

昭和二年十二月十八日



後姿に
見とれる
候補者
勿驚合
計多々
二十餘
名也



1339

博士の数

昭和二年十二月二十日



醫

二六九八

工

四七五

理

二八〇

法

二四一

文

二一九

農

一八五

藥

五十六

林

四十三

獸

二八

經

一二

商

四

政

一

合計

四二四二

1340

各国男子平均年齢

昭和二年十二月廿五日

新ゼラランド

人口千ニ對スル死亡率
九五

五九、一七

豪人トラリア

五五、二〇

丁林

五四、九〇

那威

五四、八四

瑞典

五四、五三

和蘭

五一、〇〇

米合衆国

四九、三二

瑞西

四九、二五

英ギリス

四八、五三

仏ランス

四五、七四

独イツ

四四、八二

伊タリア

四四、二四

日本

四三、九七

印度

二二、五九



收穫 (自四月一日)
至十二月三十一日
昭和二年十二月三十一日



伏見宮

大妃

利子女王

有松

英義

丹波

敬三

長沢

龜之助

吉井

幸藏

白井

遠江

永田

錦心

横井

時敬

南條

文雄

北村

四海

黒岩

休太郎

小磯

進

中村

雀岩

村上

格一

中村

德太郎

アドル

三郎

小野

英二

吳昌

石積

林田

龜太郎

新井

石禪

堀江

圭一

吉田

要作

大村

彦太郎

薄田

定吉

黒田

素介

野村

政太郎





1343

龍

昭和三年元日



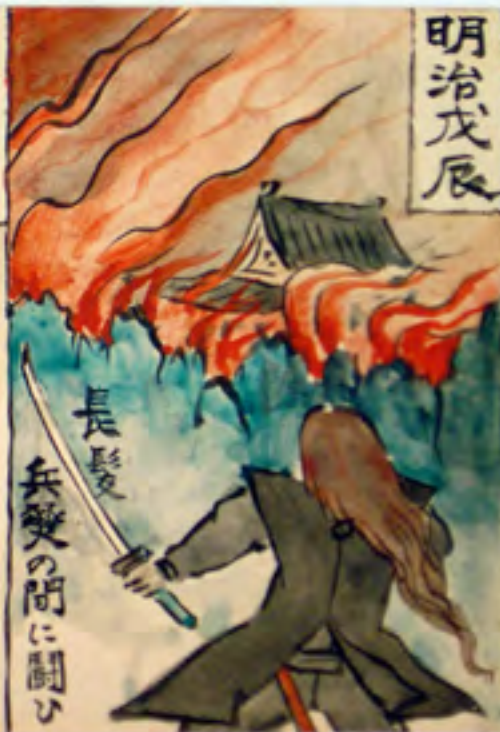
1344

戊辰

昭和三年一月二日



明治戊辰



長髪

兵變の間に闘い

昭和戊辰

断髪

紅塵の裡に躍る



国名	総哩数	100哩平方付哩	一哩当人口
ベルギー	6878	59.7	1059
スウイス	3636	20.7	1170
英(愛蘭共)	24342	20.0	1949
獨逸	35744	19.7	1674
チコスラキヤ (1924)	8497	15.7	1602
イタリア	12840	10.5	3113
ポルトガル	2167	6.2	2830
日本	12998	5.4	4596
スウェーデン	9743	5.4	627
スペイン	9655	4.8	2279
支那	7173	.1	46693

1345

世界の鉄道(一九二六年)
昭和三年一月三日



1346

巨漢

昭和三年一月九日



1347

新東京市長

昭和三年一月十日



市來果來市
不知是乙彦

1348

支那最近人口

昭和三年一月十二日



北	直	山	河	江	上	浙	福	廣	安	江	湖	湖	山	陝	甘	貴	廣	雲	四川	奉	吉林及黑龍江	新	合
京	隸	東	南	蘇	海	江	建	東	徽	西	南	北	西	西	肅	州	西	南	部	天	疆	計	
四〇一四一八〇	三〇一七三〇九三	二〇八〇三二四五	三〇八五一九〇五	二八二二五八六四	五五五〇一〇〇	二二〇四三三〇〇	二五一五七七九二	三七一七八七〇九	一九八三二六六五	一四四六六八〇〇	二八四五五一七七	二七一六七二五四	一一一一四九五	九四六五五五八	五九二七九九七	一一二一六四〇〇	一二二五八五三九	九八三五二〇八	二五七六三五〇七	一二九二四〇〇〇	九二五八六〇〇	二四一九五七五	四〇二〇八四二一九

1349

衆議院解散

昭和三年一月二十日



1350

天然痘入京す

昭和三年二月一日



平日選は苦戦
昭和三年二月九日



内相
選挙は公平に
ミナソレ
分ッタカ!

知事

「分りました」



1352

九条武子逝く

昭和三年二月十日



353

普選の成績

昭和三年二月二十三日



政友 二一九
民政 二一七

合計	中立	地無	日勞	勞農	民衆	革新	實同
四六六	一四	一一	一一	二	四	四	四



1354

久宮祐子内親王薨去

昭和三年三月八日



1355

八帝大教授停年免官

昭和三年二月二十一日



1356

牧獲

(自三月十一日)

昭和三年三月三十一日



久宮祐子内親王

小此木信太郎	押川方義
トーマス・ハーデト	西源四郎
小池靖一	名和又八郎
丁・R・多子子	日高謹尔
松本 鼎新	大畑育造
W.E. グリフス	九條武子
湯池定基	川口冬夫
大槻文彦	津野一輔
松川敏胤	片上 伸
ロマン・ワタナベ	鳥居素川
小田桐捨次郎	九鬼毅七
岩下清周	乾孝志
中川忠順	張紹曾
向島弟彦	大矢 透
齊藤珪次	中野貫一
稲垣乙丙	

1357

日本アフガン條約締結

昭和三年四月五日



1358

明治七年の人口(日本国及々よる)



昭和三年四月八日

国名	人口	国名	人口	国名	人口
山城	四六九〇〇〇	出羽	八七〇一〇〇	讃岐	四〇〇〇〇〇
大和	三四〇七〇〇	若狹	七八〇〇〇	伊豫	五二九〇〇〇
河内	二一四九〇〇	越前	三五四〇〇〇	土佐	四〇〇〇〇〇
和泉	二〇〇〇〇〇	加賀	一九六〇〇〇	筑前	三一〇〇〇〇
摂津	七八九〇〇〇	能登	一六七〇〇〇	筑後	二七七〇〇〇
伊賀	八〇〇〇〇〇	越中	三四五〇〇〇	豊前	二三五〇〇〇
伊勢	四七六〇〇〇	越後	一〇九二〇〇〇	豊後	四六六〇〇〇
志摩	三七〇〇〇	佐渡	九〇〇〇〇	肥前	七一〇〇〇〇
尾張	六〇五七〇〇	丹波	二八二〇〇〇	肥後	六七〇〇〇〇
三河	四二〇〇〇〇	丹後	一四七〇〇〇	日向	二三〇〇〇〇
遠江	三四二〇〇〇	但馬	一六七〇〇〇	大隅	一一四〇〇〇
駿河	二五三〇〇〇	因幡	一七八〇〇〇	薩摩	二三八〇〇〇
甲斐	二九七〇〇〇	伯耆	一六九〇〇〇	壹岐	二五〇〇〇
伊豆	一二五五〇〇	出雲	二七九〇〇〇	對馬	一五〇〇〇
相模	二七八〇〇〇	石見	二四〇〇〇〇	濃島	八六三〇〇
武蔵	一六六〇〇〇〇	隱岐	二一七〇〇	後志	一五〇〇〇
安房	一三〇〇〇〇	播磨	六〇〇〇〇〇	石狩	九一〇
上総	三六四〇〇〇	美作	一五〇〇〇〇	天塩	七〇〇
下総	四七八〇〇〇	備前	三一八〇〇〇	北見	二〇〇〇
常陸	四八五〇〇〇	備中	三〇〇〇〇〇	膽振	三五〇〇
近江	五三〇〇〇〇	備後	三一〇〇〇〇	日高	三〇〇〇
美濃	五六六〇〇〇	安藝	五〇〇〇〇〇	十勝	一一七〇
飛騨	八〇〇〇〇〇	周防	三五八〇〇〇	釧路	一五〇〇
信濃	七四八〇〇〇	長門	二四〇〇〇〇	根室	六〇〇
上野	四九七〇〇〇	越前	四七七〇〇〇	千島	六〇〇
下野	四〇〇〇〇〇	荒路	一二二〇〇〇	沖繩	一六五九三〇
陸奥	一六〇二〇〇〇	阿波	四二五〇〇〇	合計	二五七七八一〇

1359

共産党檢舉

昭和三年四月十二日



1360

正面衝突(臨時議會開會)

昭和三年四月二十一日



左傾教授戯首さる

昭和三年四月二十日



1352

大倉九十二翁逝く

昭和三年四月二十二日



左の腹子は桶みだが
右の腹子は熊坂長靴



医者はお外からの
援兵
病氣は俺が自分で
闘ふ



1364

濟南事件

昭和三年五月六日



臨時議會終了

昭和三年五月六日



1366

北軍敗退(支那の事)

昭和三年五月十八日



1367

内閣改造

昭和三年五月二十三日



田中
オラが内閣だ！
オラが勝手をする



1368

文相挂冠

昭和三年五月廿四日



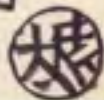
文相
竟龍みすがらんとて
墜落す



1368

水野文相挂冠

昭和三年五月廿四日



二為内相一^文相
碌々尚受伴食辱
宣^レ錦^レ翻^レ辞^レ又^レ忽^レ辞^レ
心事陰慘轉堪恨
小智由來誤^レ天義^三
香堂不香臭聲傳^フ



吳牛の世は新聞屋

あかりせば

我やは斯くは

あらまし由のま

香堂



1369

北軍苦戰(支那)

昭和三年五月二十五日



1370

首相糺弾

昭和三年五月二十六日



民政党
コンナ首が
あんだ
貴様
の首
をと
渡せ

田中
オラの
知つた
こツチヤ
あい



1371

田中首相彈劾

昭和三年六月二日



田中
マダ何が
やちよる

わい

甲
輕率
不謹慎……

乙
果を
皇室に

丙
臣節
を……

丁
遺憾
を……
堪ぬ……





1372

張作霖退京

昭和三年六月三日



1373

六月四日

あぶない!
昭和三年六月八日



張作霖

田中

六月八日

1374

満蒙問題

昭和三年六月九日



1375

天津引揚げ料

昭和三年六月九日



張宗昌

引き揚げ料
一千万円
だぞ

東沽

西沽

北京

天津

天津市民
「高いな、十萬円は
まかりませんか」

1376

宗教糾合難

昭和三年六月十日

当局

神

基

佛





1377

災々乎とて危ひ哉

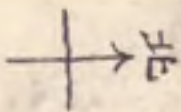
昭和三年六月十二日



1378

樺太山火事

昭和三年六月十三日



1879

張作霖の生命

昭和三年六月十六日



「遭難の時
即死した
のさ」

「兎も角
死んでる
さ」

「ナニニ！
マダ生きて居るよ」

「八日に
死んだ
のだと
さ」



1380

松平節子嬢

昭和三年六月二十二日



節子

大使

夫人

支那の新分野

昭和三年六月二十二日



1382

不戦条約

昭和三年六月廿七日



米
モロ戦争
は止め
ようぜ

一同
ハイ畏まり
ました



收穫

自昭和三年四月日
至今六月三十日

元田 金吉 武藤 實康 池園 後造 若尾 欽亮 伊藤 和訓 石橋 任三 松村 周一 龍野 謙三 中川 弘基 二条 武亮 山根 道三 大倉 喜八 梅若 誠太 改野 耕三 京極 高徳 野口 英世 上遠野 留之助 紫山 元洪 杉山 四五郎 梅谷 藤太郎 張作 霧 物集 高見

先代

張作
霧
物集
高見

昭和三年七月十日



支那
借金は踊
み倒すが
對等の
つき合ひを
して貰ひ
てー



1385

満州露分問題

昭和三年七月十日



国民政府

張坊や

おマジンウニツは

おまへにやる

からこの旗を

立てるんだよ



1386

世界一の巨婦

昭和三年七月十八日



7尺

6

5

4

3

2

1

伊東忠五

身長五尺二寸

体重十二貫

出羽多良山

身長六尺六寸六分

体重四十貫

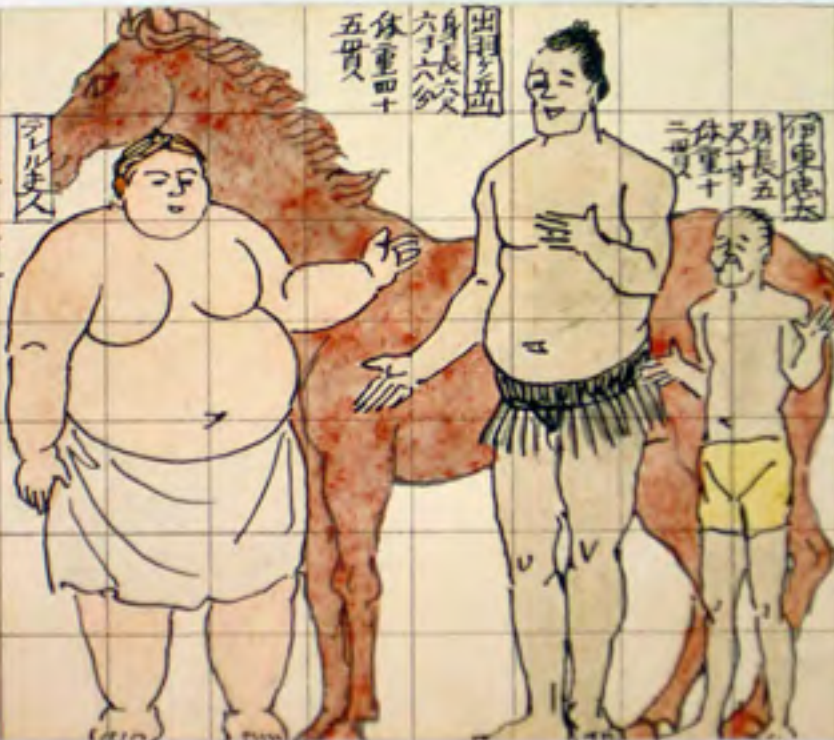
五貫

テイル夫人

身長五尺七寸

体重九十三貫余?

(恐らくは六十貫を越へざるべし)



支那の狂態(日支條約破棄)

昭和三年七月二十五日

米「ヤンコロ」負けるふ

支

愚図く又かすこ
蹴つ飛す日
「マー」静かにしふやい

張學良煩悶

昭和三年七月二十七日



日
「おはさんの
言ふ通り
みすろん
ですらよ」

張
「おはさんも
こわい
おちさんも
とわい」

支
「コレ
おはさんの
言ふことを
聞くと承知
しちーぞ」



1389

日本獨行

昭和三年八月一日



「オーイ
みんな来い
早く来あいと
支米ヤンに叱られるよ」

1390

床次竹次郎脱党す

昭和三年八月一日



始如「夷女」
終即脱党

床次

「ヒョイと脱け出た
シメコの兎

田中

「ハネズにコツチへ
きふこゆち



1391

梅雨
又来
たよ

三度の梅雨(未曾有の天変)
昭和三年八月三日



山

1392

對支交渉難

昭和三年八月十日



米
お手
並を拜
見致そうか



支
来
い

甲
セツケ
ようか



乙
一寸待て、
後子變ふ
奴がついて
居る

丙
ナニ構ふ
もんか

1893

市議畢腐敗(板舟事件)

昭和三年八月十七日



市議

心如虎狼面似人
肺肝如糞腸似泥

トテの
自太い



1394

魔神

昭和三年八月二十日



F. ENGELS



K. MARX



1395

民政党内訌

(小寺、中、樋口、
斯波除名)

昭和三年九月十一日



腹中の
異分子
は早く
出さる
ばあら
曲が
根治
は六ヶ
敷一
でし
よう

病漢口
「ア、苦しい」



英語論争(不戦條約文の一句)

昭和三年九月十九日



甲
ケシカラン人民の
名を於てとは

乙
イヤ人民の
為にだから
差支ハ
ない

丙
イヤ人民を
代つてだから
結構だ

丁
イヤ臣
民の名義
と云ふ意思

ケシカラン
味だ、実に

in the names of
their respective
Peoples

1397

英仙 米に睨まる
昭和三年九月二十六日



米
老ボレ
共が何を
コソク
やって居
るのだ



1398

三木武吉引かる

昭和三年九月二十七日



1399

秩父宮勢津子姫御結婚

昭和三年九月二十八日



1400

收獲

自七月一日
至九月三十日

昭和三年九月三十日



葛西善藏
黒住成章
板倉勝憲
酒井忠亮
川寄寛名
市瀬恭次郎
佐藤傳藏
櫻井恒次郎
アマノ元次
山崎四男六
久保田勝美
尾上松助
玉椿
村松亀一郎
大島久直

